
2024年度(2025年3月期) 第1四半期決算

株式会社ダイヘン

2024. 9. 17

2024年度第1四半期業績

(単位：億円)

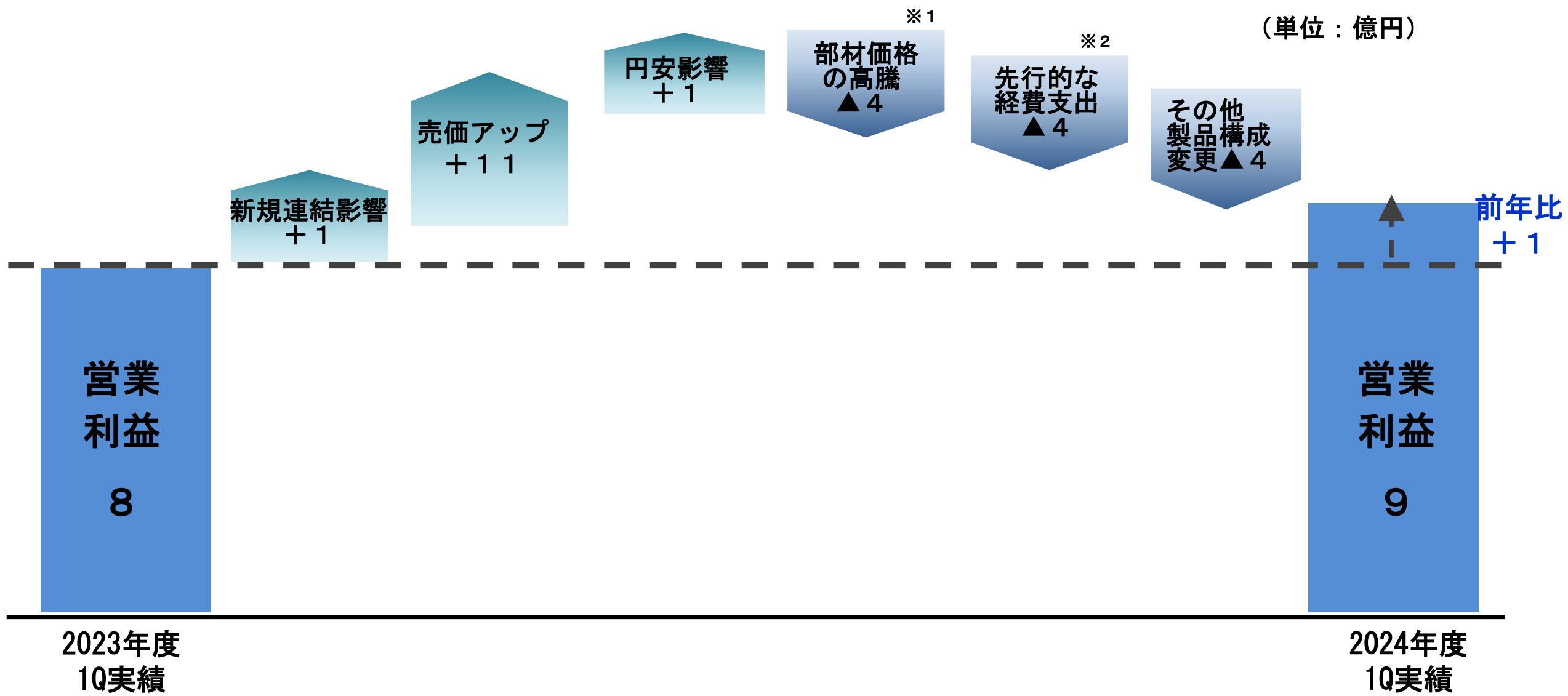
	2023年度 1Q実績 ①	2024年度 1Q実績 ②	前年同期比	
			②-①	増減率 ②/①
売上高	352	433	+81	+22.7%
営業利益	2.2% 8	2.1% 9	+1	+16.3%
経常利益	3.8% 13	3.4% 14	+1	+11.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1.9% 7	1.5% 6	-1	-7.5%
開発費投資額	15	16	+1	+6.7%
設備投資額	28	30	+2	+7.1%
減価償却費	12	15	+3	+25.0%

2024年度第1四半期 セグメント別情報

(単位：億円)

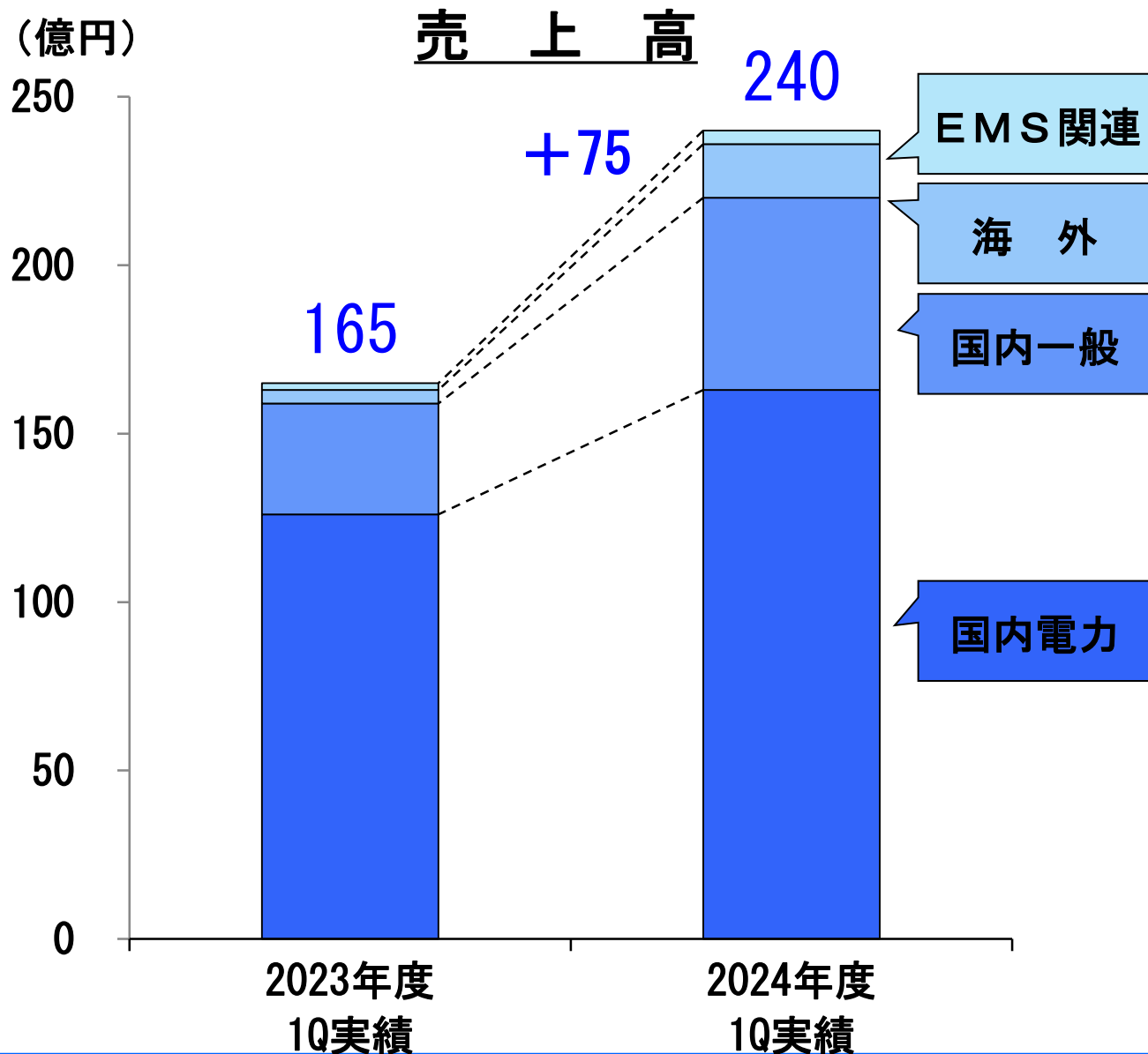
	受注高		売上高		営業利益	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
エネルギー マネジメント	275	+17.6%	240	+45.4%	13	+480.8%
ファクトリー オートメーション	84	+12.1%	55	-8.3%	-5	—
マテリアル プロセッシング	173	+33.9%	137	+8.0%	12	-23.4%
全社計	532	+21.5%	433	+22.7%	9	+16.3%

2024年度 第1四半期 営業利益変動要因 (前年同期比)

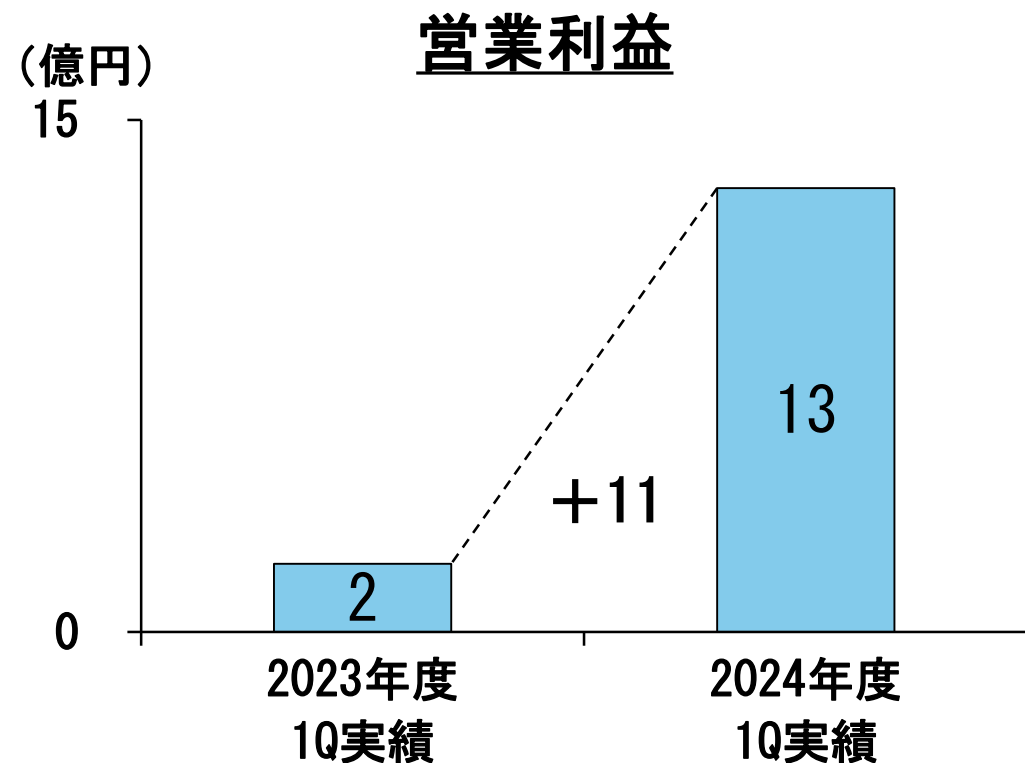


※1. 部材価格の高騰 : 銅 ▲2、電磁鋼板 ▲1、電子部品他▲1
※2. 先行的な経費支出 : 開発費▲1、償却費▲1、広告宣伝▲2

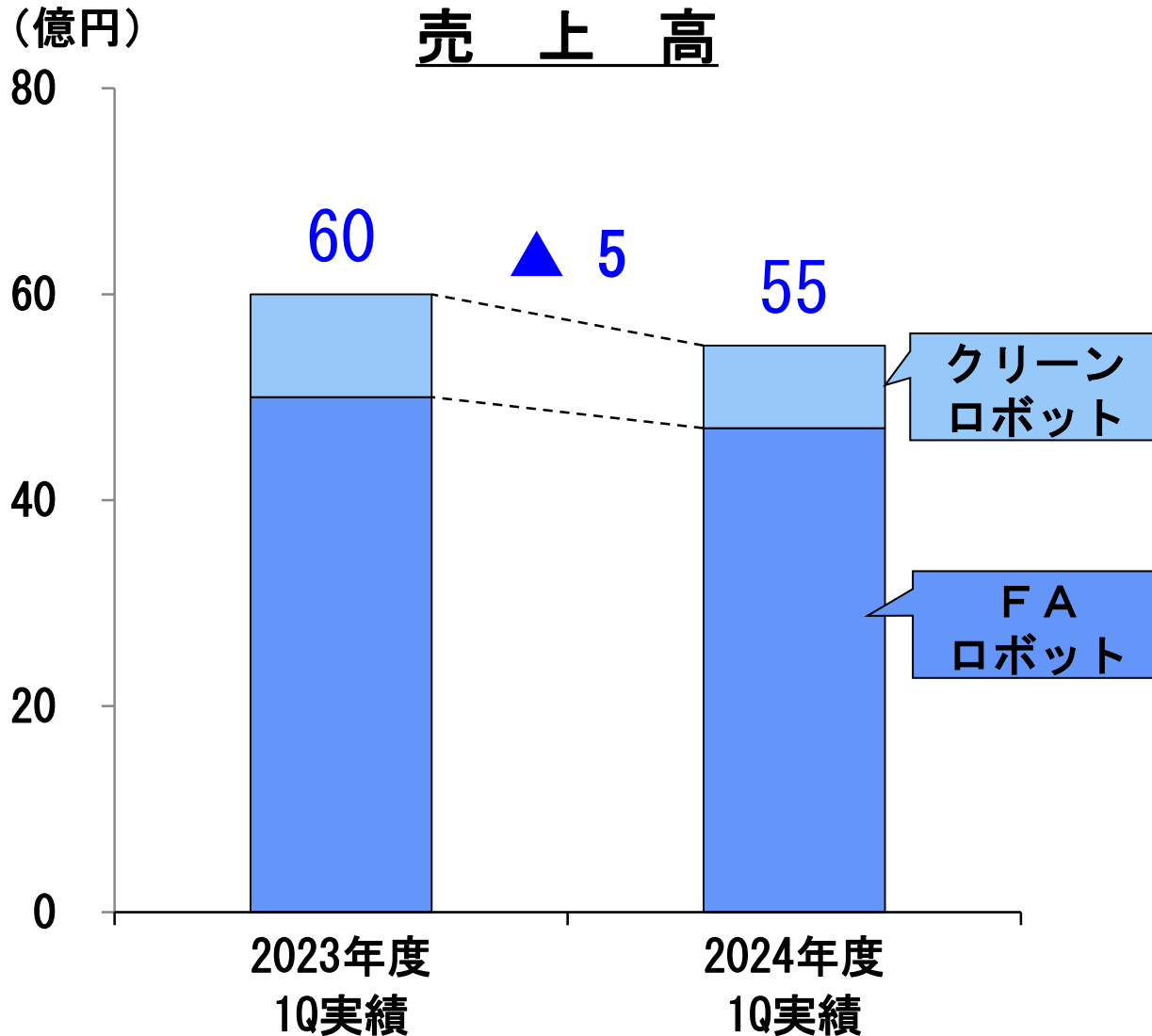
「エネルギーマネジメント」セグメント



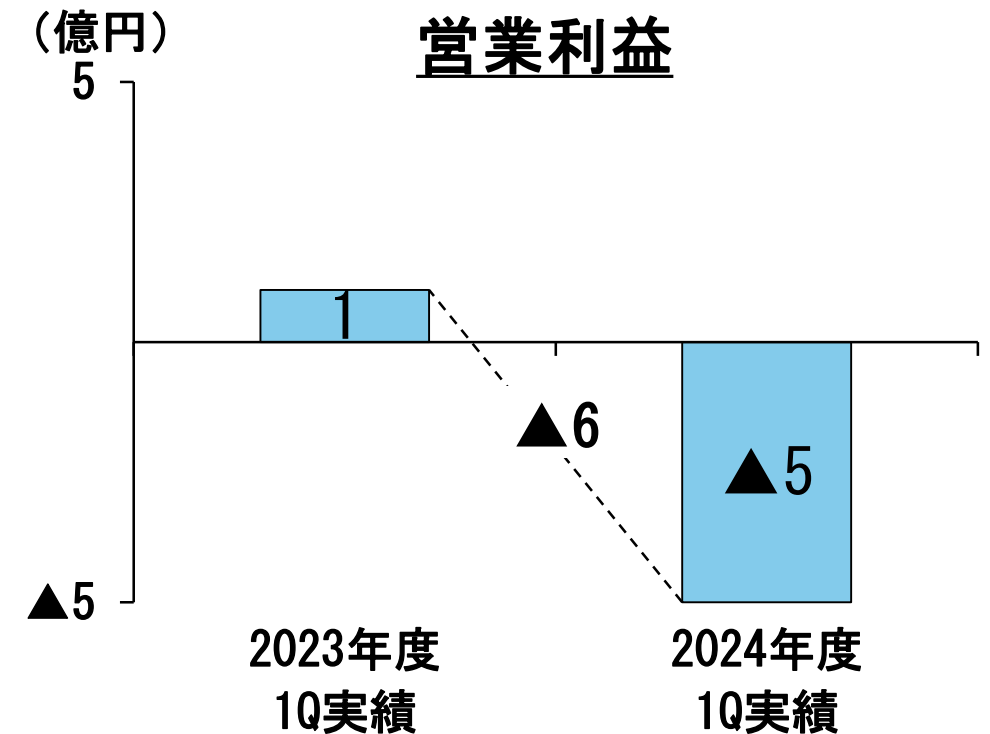
・配電機器・海外大形変圧器の更新投資が堅調に推移したことに加え、新規連結影響(東北電機製造と四変テック)もあり増収・増益



「ファクトリーオートメーション」セグメント

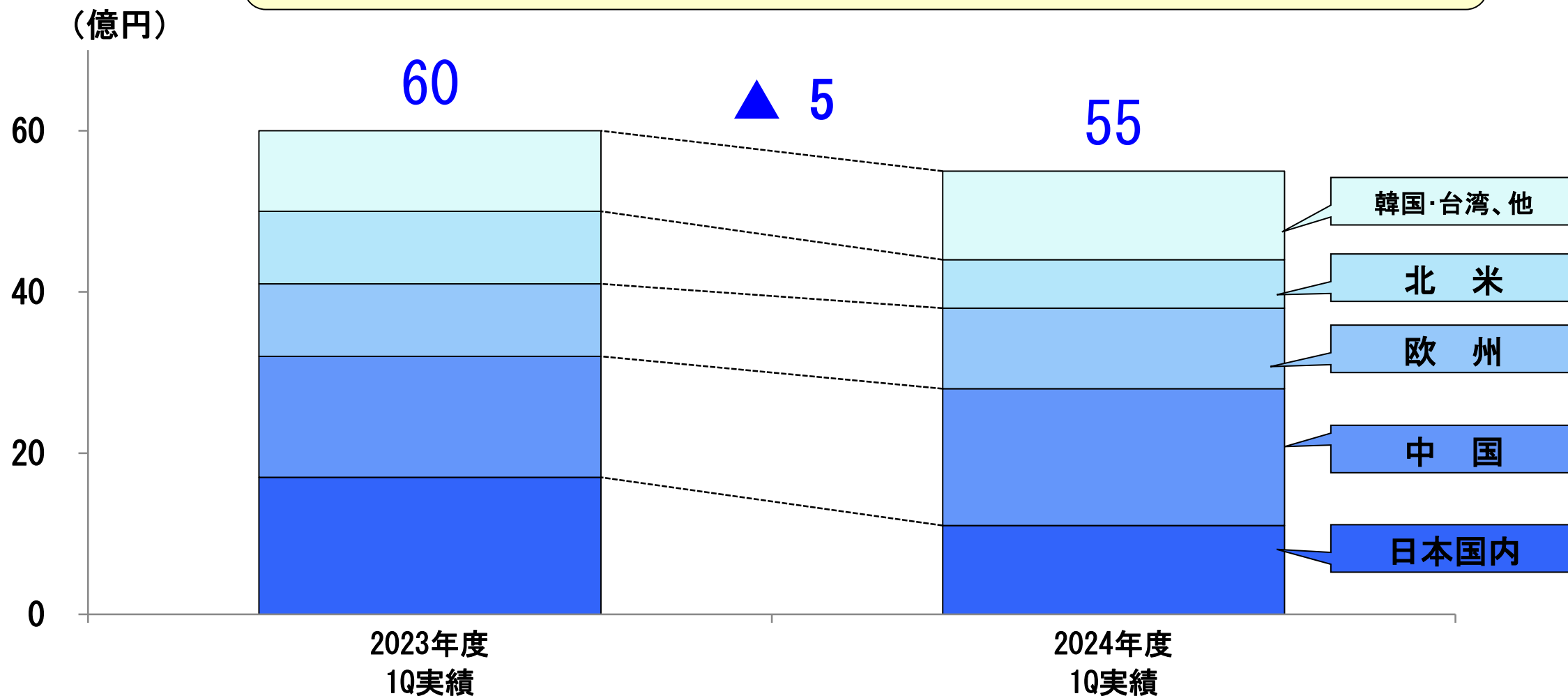


- ・ 欧米での金利高止まり等に伴う投資先送りの影響により減少
- ・ 売上減に加え、事業拡大のための先行的な経費投入もあり減益

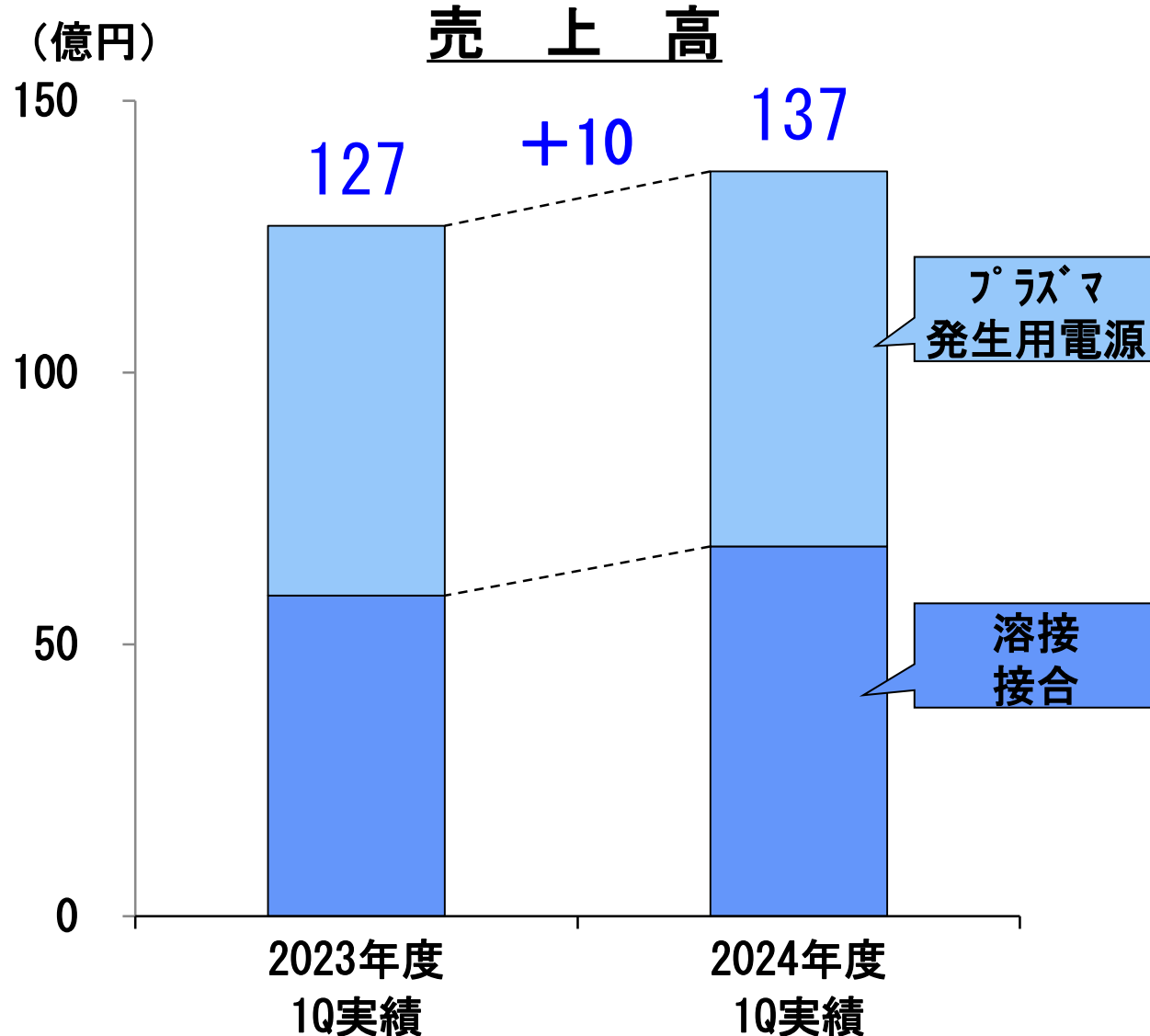


「ファクトリーオートメーション」地域別売上高

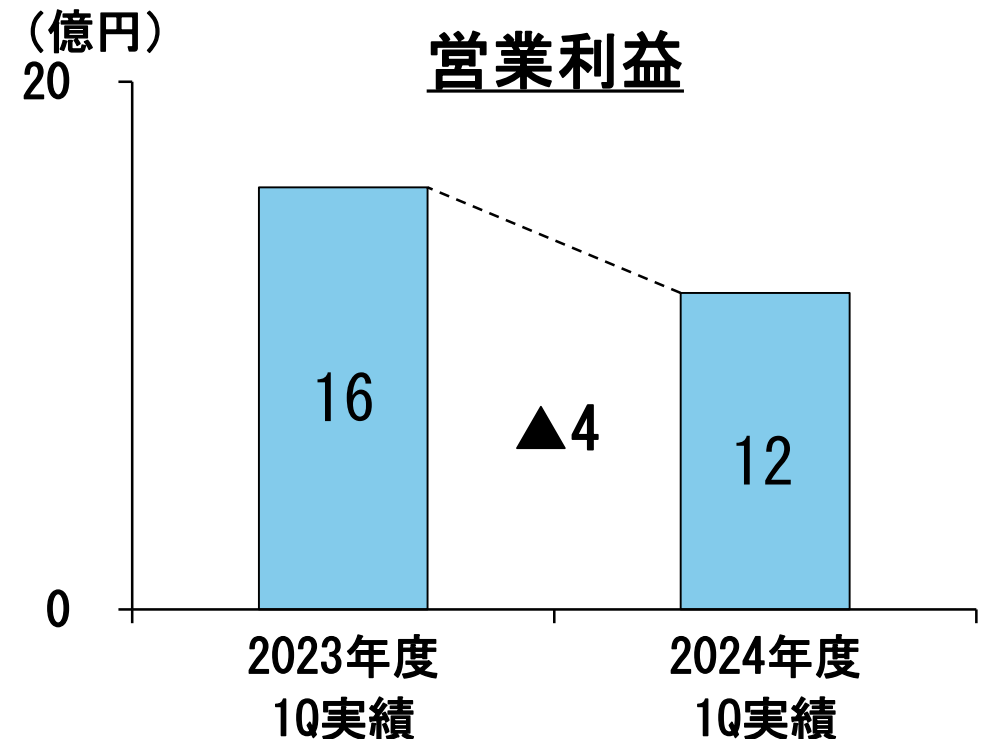
- ・ ローヒ社の連結子会社化により増加したが、国内自動車市場の生産減や欧米での投資先送りにより減少。



「マテリアルプロセッシング」セグメント



- 溶接・接合は国内建築及び自動車関連が減少したが、ローヒ社の連結子会社化により増加
⇔国内の売上減少及び買収によるのれん償却費計上もあり減益

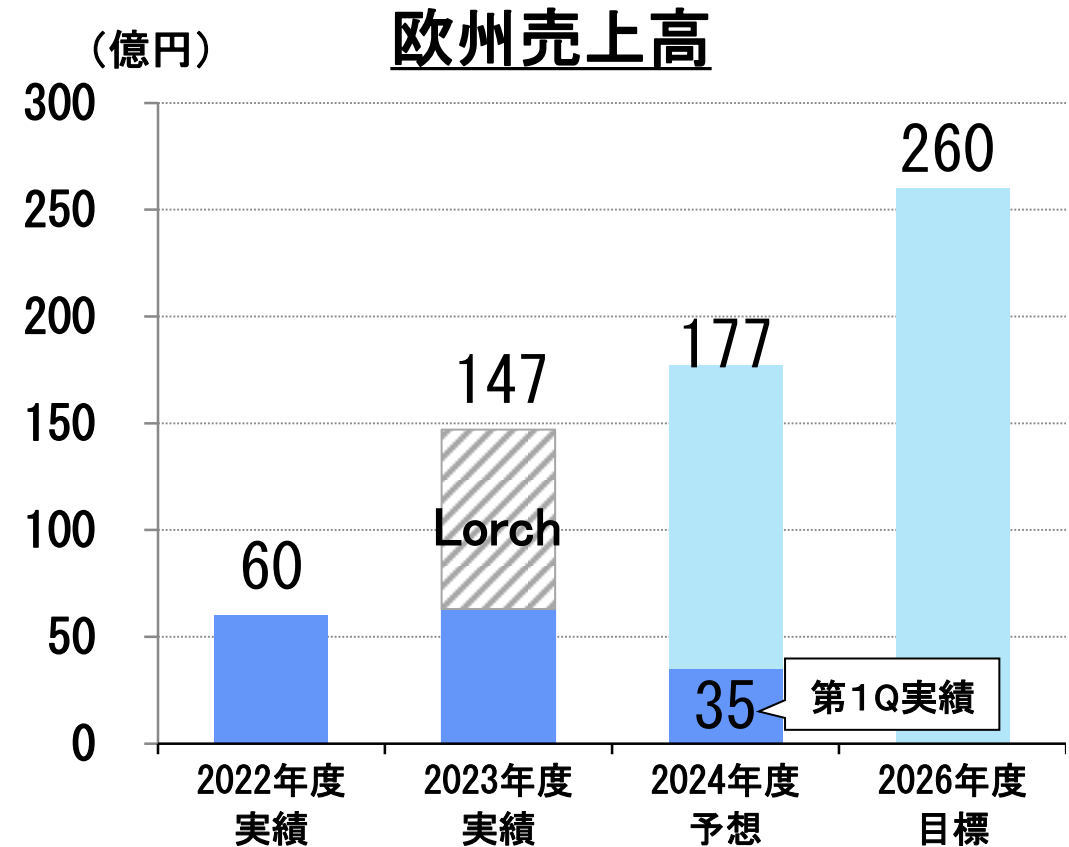
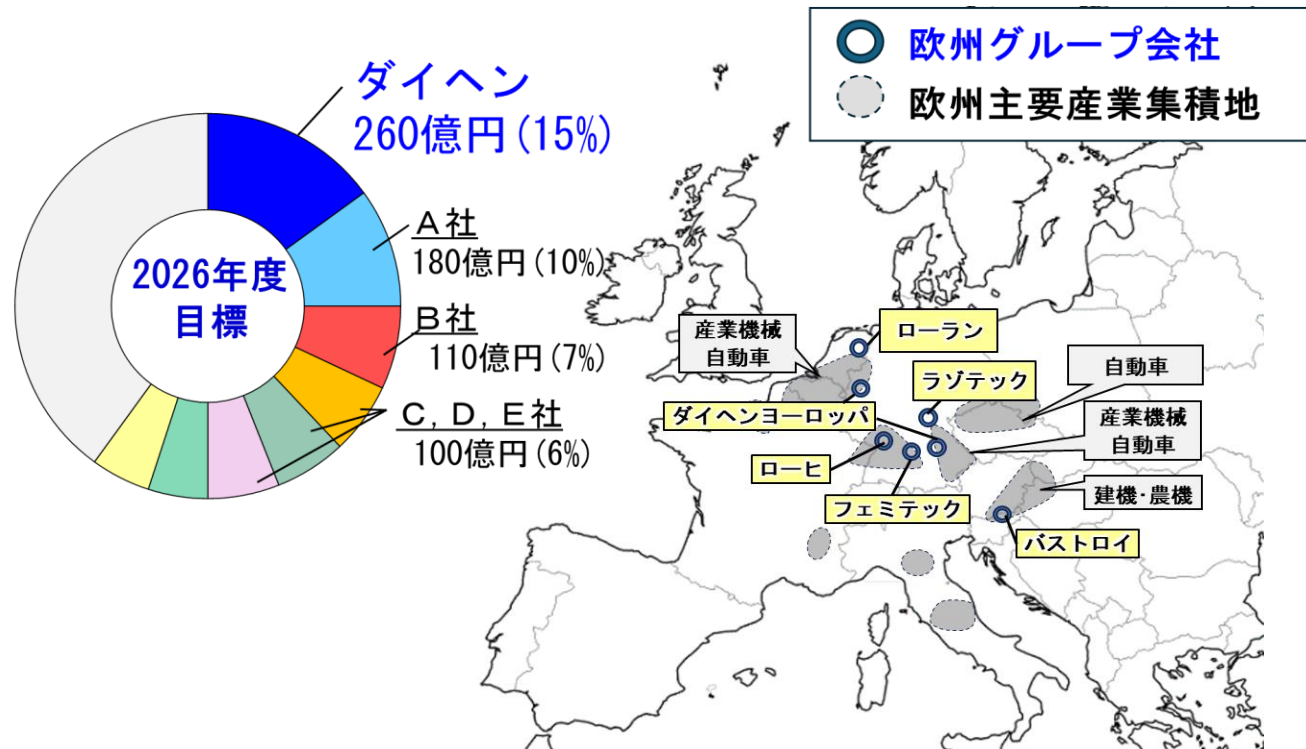


欧州事業の拡大

欧州の売上高目標（非連結子会社を含む）

2022年度 **60**億円⇒ 2026年度 **260**億円

- これまでに買収したグループ各社の製品・販売ルートの相互活用により、欧州事業拡大を図る。2026年度には溶接周辺システム分野にて欧州No. 1のポジションを築く。



※マテリアル・ロッシングとファクトリーオートメーションの合計
(非連結子会社含む)

目指す姿

社会課題の解決に積極的に貢献する企業

基本方針

社会課題解決に資する開発の領域拡大

脱炭素社会の実現

労働力不足の解消

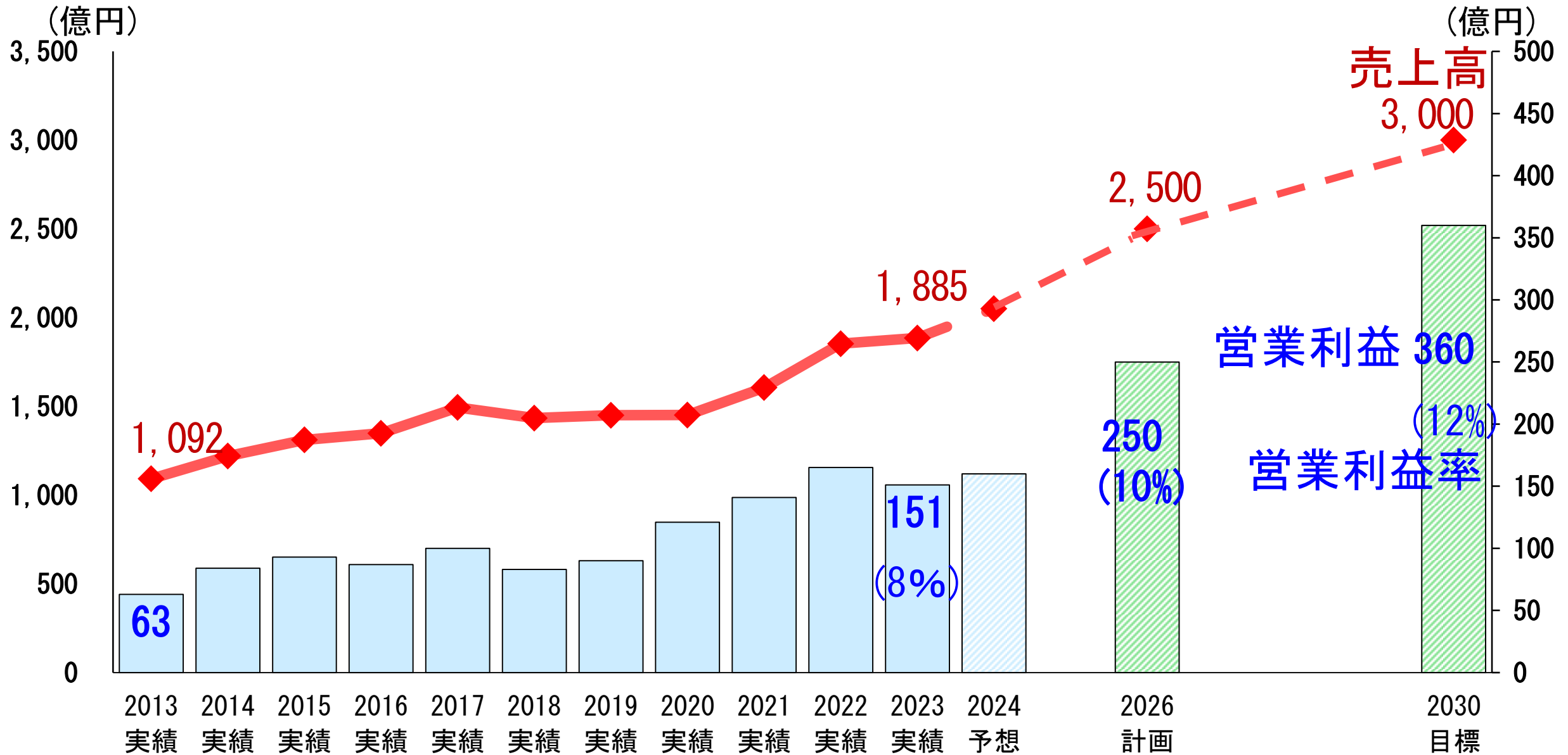
デジタル化の推進

社会課題解決に資する開発の領域拡大テーマ

(単位: 億円)

社会課題	主な開発テーマ	売上高目標			2030 年度
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	
脱炭素社会の実現	次世代配電関連機器(直流配電等)	150	190	300	550
	再エネ自家消費蓄電池システム				
	A 系統用蓄電池システム				
	B 充電インフラ機器・システム				
	大容量需要家向け受電システム				
	E V 軽量化対応接合機器				
労働力不足の解消	多品種・少量生産に適したロボットシステム	60	90	150	250
	C 協働ロボットの品揃え強化				
	脱技能化接合機器				
デジタル化の推進	D 半導体製造装置向け省エネ電源	90	120	250	450
	// 省スペースロボット				
	チャンバククリーニング向けプラズマ源				
合 計		300	400	700	1,250

中期計画業績目標



資本政策とキャッシュフロー

資本政策の基本的な考え方

- ◆ 「幸せの目標値」に沿ったステークホルダーへのバランスのとれた利益還元と積極投資を継続
⇒ 自己資本充実(自己資本比率50%水準)と資本効率向上(R O E 中計目標12%以上)の両立
- ◆ 当中期計画では運転資金の増加抑制により投資を上回る営業キャッシュフローを創出

キャッシュの分配 (3年累計)

前中計期間実績

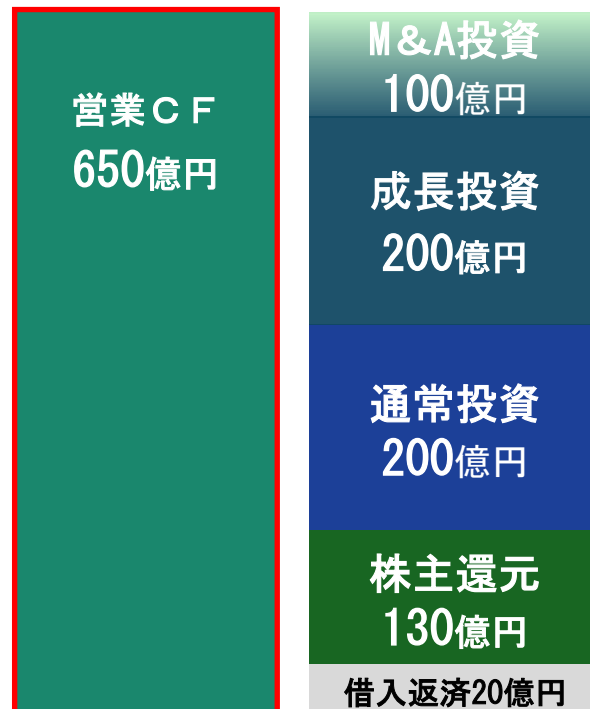
<キャッシュイン> <キャッシュアウト>



前中計期間は部材調達難等に伴い運転資金増加で営業CFがマイナスであったが、将来に向けた成長投資を実施

当中期計画

<キャッシュイン> <キャッシュアウト>



・既存事業の新規顧客開拓や周辺事業拡大、パートナー企業への資本参加 など

●2024年4月
オランダSier
ローラン社買収

・自動化投資
・研究開発センター
・再エネ活用投資
・福利厚生施設、など

●2024年上期
高周波電源
システム工場増築

・減価償却費内での更新投資

・配当性向30%以上

・営業CF内でのステークホルダーへの還元
「ならでは製品」連続創出のための開発費投入
社員への3回目の賞与支給
地域社会に利益の1%を社会福祉目的で寄付

ステーキホルダーへのリターン

～「幸せの目標値」に沿ったバランスの取れた利益還元～

	2023年度実績
売上高	1,885億円
営業利益率	8.0% (151億円)
ROE	13.3%

2026年度計画
2,500億円以上
10%以上 (250億円以上)
12%以上

2030年度目標
3,000億円以上
12%以上 (360億円以上)
12%以上

ダイヘングループの目的

“みんなの幸せ” (1985年/第5代社長 小林啓次郎) **同時達成”**

お 客 様

- ・「ならでは製品」を連続創出のため売上高の6%を開発費投入
- ・お客様事業の社会的価値向上に貢献する製品・システムの提供
⇒環境配慮製品構成比80%以上

社 員

- ・3回目の賞与（対前年度5%以上増益の場合に支給）
営業利益 80億円以上：1ヶ月～120億円以上：2ヵ月（上限）

株 主

- ・配当性向30%以上

資 材 取 引 先

- ・コストダウン成果の50%還元

地 域 社 会

- ・地域の子供達の福祉のため営業利益の1%を寄付
- ・環境配慮製品構成比率80%以上

「幸せの目標値」

系統用蓄電池システム

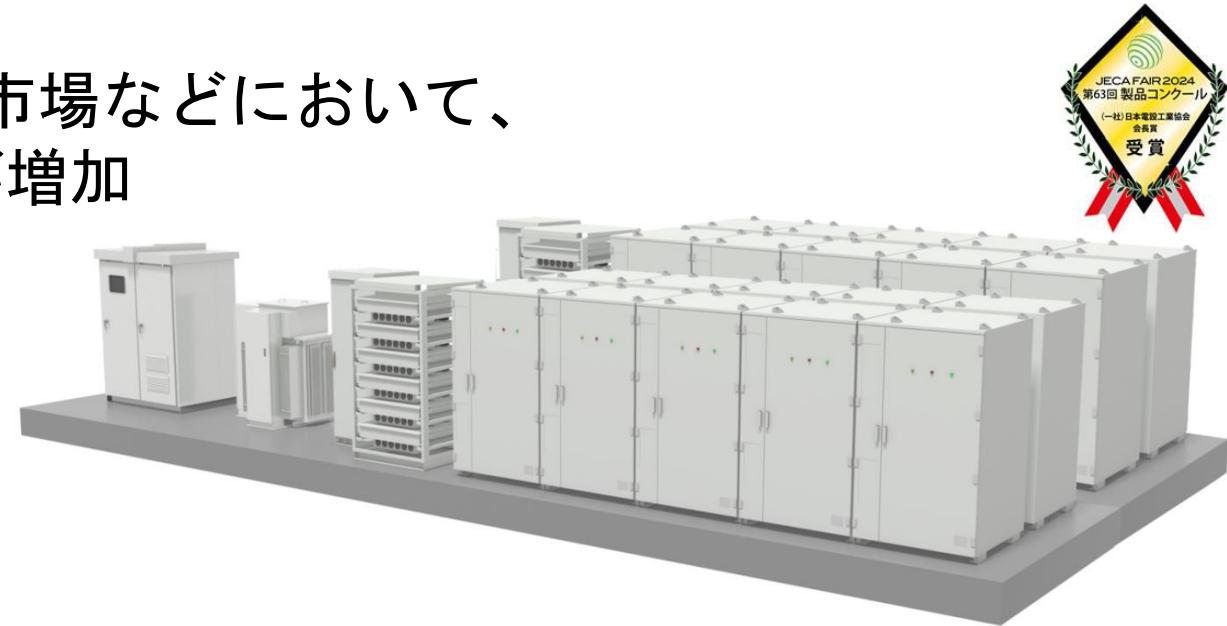
【市場環境】

- ・ 2024年4月に本格開設となった需給調整市場などにおいて、早期に運用可能な系統用蓄電所の需要が増加

【当社の取り組み】

- ・ 新規開発のユニット型パワコン搭載蓄電池パッケージを武器に系統用蓄電池システム案件受注を拡大

**2024年度受注高見込み
約50億円**



2MW-8MWh蓄電池パッケージ

(特長) 系統用蓄電池の設置面積を約40%削減
⇒ 事業収益最大50%アップ可

EV充電インフラ機器・システム

プラグイン充電器

- 国内初の180kWパワーブースト機能搭載
「急速充電器D-Rusher (450V仕様)」を市場投入
⇒充電インフラ事業者などから注文獲得
- EVバスや商用車などの高電圧化対応として
750V仕様のラインアップ拡充
(CHAdeMO認証取得済み)



120-180kW

「急速充電器D-Rusher」

ワイヤレス充電システム

- 「EVワイヤレス給電協議会」設立(2024年6月)
⇒電気自動車へのワイヤレス給電の
社会インフラ化を推進



協議会ロゴ

関西電力(株)、(株)ダイヘン
シナネン(株)株式会社
(株)三菱総合研究所
WiTricity Corporation

- 「2025年大阪・関西万博」走行中ワイヤレス給電
⇒GI※基金事業の取り組みとして会場にアクセス
するEVバスの充電に使用される
(関西電力・大林組・大阪メトロ・NEXCO東日本
と協業)
※グリーンイノベーション基金事業(NEDO)

協働ロボットラインアップ拡充

- 高品質溶接を可能とする高い軌跡精度
- ダイレクトティーチやタブレットによる
教示レスシステムを採用し、
簡単で効率的な操作を実現



PHOTO TOUCH
TEACH

タブレットによる撮影だけで
教示プログラムを自動生成



カメラで撮影

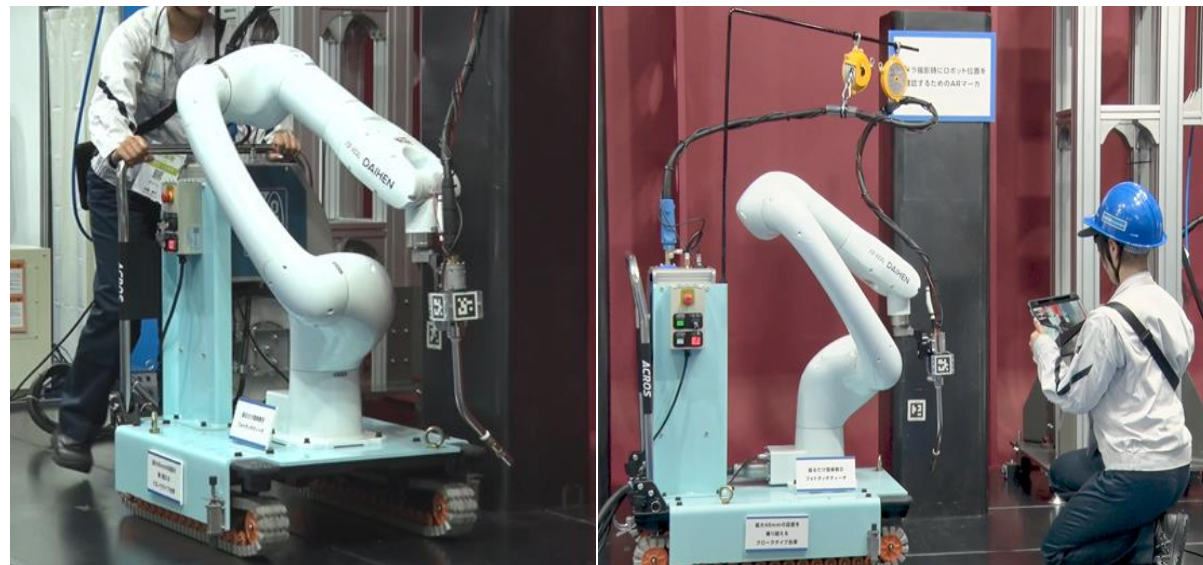


溶接線を画面タッチ



生成プログラムを転送

- 対象ワークごとに適した台車PKGを品揃え
⇒造船など大型構造物の溶接に対応



■高周波電源システム受注高

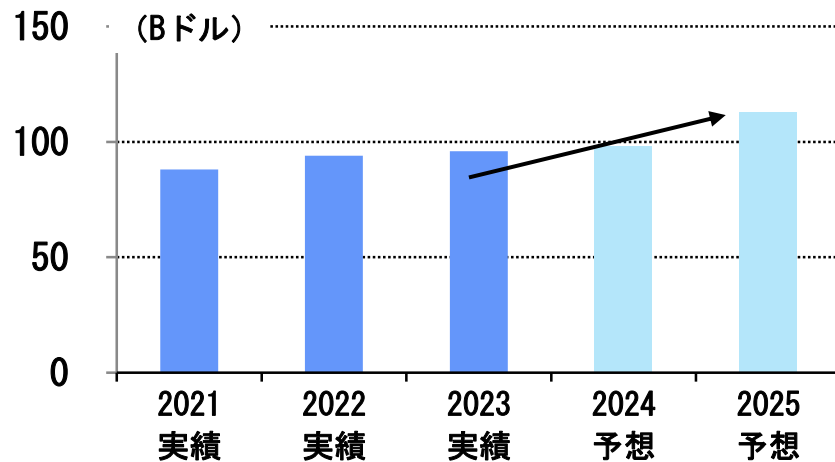
(億円)

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
受注高	67	101	+34	+51%

- ・生成AIの活用拡大に伴う先端DRAM・ロジックの需要増により高周波電源システムの受注高は回復基調

■半導体製造装置市場(前工程)

- ・2024年は中国向け投資継続や生成AI活用拡大に伴うDRAM・ロジックの需要増加により高水準に推移。2025年はNAND拡大も見込まれ本格回復を予定する。



■高周波電源システム生産工場増築

- ・2024年以降市場回復に備え工場増築。
…2024年4月竣工、順次生産設備導入中。
2024年9月本稼働。
- ・生産能力約1.4倍へ（最大2倍まで可）
- ・高密度収納/高速入出庫可能な自動倉庫や自社製自律搬送台車(AMR)導入により生産性向上を図る。



業績予想

(単位：億円)

			2023年度 1Q実績		2024年度 1Q実績		前期比		2024年度 2Q予想		前期比		2024年度 通期予想		前期比			
売上高			352		433		22.7%		900		14.0%		2,050		8.7%			
			1	エネルギー・マネジメント	165		240		+45.4%		445		+26.3%		1,030		+5.5%	
			2	ファクトリーオートメーション	60		55		-8.3%		165		-4.7%		340		-2.2%	
			3	マテリアルプロセスング	127		137		+8.0%		290		+10.3%		680		+21.6%	
営業利益			2.2%	8	2.1%	9	16.3%		5.0%	45	-11.3%	7.8%	160	5.6%				
経常利益			3.8%	13	3.4%	14	11.7%		5.6%	50	-13.6%	8.2%	168	4.5%				
親会社株主に帰属する 当期純利益			1.9%	7	1.5%	6	-7.5%		3.9%	35	-14.4%	5.9%	120	-27.2%				

第1四半期実績は概ね計画通り。足元では電力会社向け更新投資が堅調であり、半導体関連投資も増加基調にある。
…従来業績予想(2024年5月9日公表)の変更なし。

将来予想に関する注意事項

- ・ 本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・ なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。
 - － 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
 - － 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - － 為替相場の変動
 - － 原材料価格の相場変動
 - － 競争企業の製品・サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
 - － 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化